

# 自己点検・評価表

実施日: 令和3年9月30日

学校名: 専門学校 中央農業大学校

## 1. 学校の教育目標

自らを高め広い視野で物事をとらえ、創造的で実践力を備えたビジネス界で幅広く活躍する人材を育てる。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ・6次産業化教育の推進

6次産業「生産・加工・流通販売サービス」の一連の流れを授業に取り入れて実践的に行う。また、本校のオリジナル商品である「はたちのみそ漬け」・「はたちのコシヒカリ」・「はたちの干しいも」について販売先の拡大に取り組む。特に「はたちの干しいも」については、生産・加工・販売の実践の機会として有効活用する。さらに販売実績を損益管理し経営感覚を養う。

### ・職業教育連携

学生のアイデアを形にしたオリジナル商品を店頭で販売できるように開発していく。新しい技術や新商品に対し、学生が主体となり実証試験を行い、結果を考察し整理する。

### ・スマート農業の推進

学生が育てた野菜についてビッグデータ化を行うために、農産物個体のデータ化を進める。農業センサーの仕組みを理解しながら組み立て、圃場への実装を行う。ハウス内での農業センサー数値や監視カメラ画像の分析を行う。ドローン操作技術を学ぶ。これらを通してスマート農業の基礎を学ぶ。

連携企業にて最先端の水耕栽培や袋培地技術を実践的に学ぶ。

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」農業分野のスマートワークを推進・実現する人材育成プロگرام開発事業において、シラバス・コマシラバス、テキスト、実証講座のカリキュラムの開発を実施し、実証講座によりカリキュラムの検証をする。

### ・有機認証機関との連携

日本オーガニック認証協会と連携して有機農業の講習を実施し高付加価値な農産物を提供する手段を学ぶ。

### ・農業経営のイノベーション

産学連携を通して実際に「収穫感謝祭」や「各種イベント」でオリジナル商品の生産、加工、販売を行う。

学生が栽培した野菜を販売する機会を拡大する。地域貢献を意識させ、直売所だけでなく、近隣の小売店や施設で販売する。

### ・地域創生とブランド化

群馬県や近隣の県での連携を行い、新商品開発や新メニュー開発を通じてコミュニケーション能力豊かな学生を育成する。

### ・グローバル化に対応した人材育成

実践的なビジネス英会話を授業カリキュラムに取り入れて学ぶ。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
2	・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
3	・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
4	・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
5	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 課題

これからの農業はスマート農業時代に入り、その技術は日々進歩している。そのため、進歩する先端技術を常に把握し、授業カリキュラムに取り入れ、学生に還元していくことが求められる。

② 今後の改善方策

スマート農業を積極的に取り入れている関連各団体の取り組み事例を把握する。また、スマート農業技術を開発しているメーカーの最新技術情報を入手する。

③ 特記事項

新たに設立されるグループ企業にてデュアルシステムを活用できるよう準備を進めていく。

2 学校運営		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・目的等に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
2	・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
3	・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
4	・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
5	・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
6	・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
7	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
8	・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

SNSを活用した情報発信について改善を進めていく必要がある。

② 今後の改善方策

情報発信の素材は教職員だけではなく、学生からも集めていく。それにより、新しい情報、読み手の興味関心の生まれる情報公開をする。

③ 特記事項

広報活動において紙媒体のみならず、SNSを活用した幅広い本校のPRができるようにする。また、学生に情報を提供してもらう手段として学生参加型の部活動「YouTu部」と「インスタ部」を立ち上げた。

3 教育活動		適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1			
1	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
2	・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
3	・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
4	・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
5	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
6	・専門分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
7	・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
8	・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
9	・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
10	・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
11	・人材育成の目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
12	・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
13	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
14	・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

クラスの増加、カリキュラムの専門化と時代に即した変化や学生指導の細分化が進むなかで、それらに対応できる教職員の配置について、配慮していく必要がある。

② 今後の改善方策

学生からクラス担任および科目担任のアンケートを継続実施し、改善を図っていく。また、教職員が関連分野の新たな情報を学べる環境を作る。

③ 特記事項

学生のアンケートを基に改善点の検証をし、新たな授業展開、学生指導に役立つ教育体制への取り組みを実施。

4 学修成果		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
2	・資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
3	・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4	・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
5	・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

R2年度：退学者1年次生、1名。2年次生、0名と、昨年度と比較し改善された。  
(R1年度：退学者1年次生、4名。2年次生、1名)

② 今後の改善方策

欠席が多くなると退学になる確率が高くなる。本校入学前に登校習慣のない学生や、欠席の続く学生に対しては、家庭との協力体制を取る。また、担任だけでなく全教職員で対応に当たる。必要に応じて学生と個別面談を、担任、学科長、教務次長、副校長とステップを踏む形で実施している。

③ 特記事項

カウンセリングを希望する学生には、スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施。

5 学生支援		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
2	・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
3	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
4	・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
5	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
6	・学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
7	・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
8	・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
9	・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
10	・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

担任の業務は多岐に亘る。特に学生指導において、学生自身は勿論のこと、保護者に連絡を取って貰う。担任業務の軽減が課題である。

② 今後の改善方策

毎日の朝礼・終礼の場で、問題点の共有(報告、連絡、相談)、協力体制の下、学生対応を図る(継続中)。さらに、毎月定例教務会議を実施し、教職員間で情報の共有化を図る(継続中)。

③ 特記事項

学生の特性に合わせた就職支援を行い、就職率100%を達成した。  
保護者会は6月と12月に2回実施。同窓会は6月実施。

6 教育環境		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
2	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	②	1
3	・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

コロナウイルス感染予防の観点から学生個別のインターンシップが実施されていない。

② 今後の改善方策

コロナウイルス感染予防を継続しながら、かつ状況も見据えながら、インターンシップ受入先企業と連携する。

③ 特記事項

空調設備の取り換え工事実施。

7 学生の受入れ募集		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
2	・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
3	・学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

① 課題

本校の知名度が県外ではまだ低い。本校の特徴をSNSでの配信やパンフレットの送付のみならず、直接高校を訪問する等して、知名度の向上につなげる必要がある。特に工業系、商業系の高校へも農業分野との関連性を伝える必要がある。

② 今後の改善方策

現在の農業における課題と本校のカリキュラムを周知するとともに、興味関心のある高校生を掘り起こす。広報担当にとどまらず、職員一丸となって本校のPR活動を実施する。県内外の高校一覧を作成し、訪問実施の「見える化」に努める。現在、コロナウイルス感染拡大予防対策による、広報活動の制約に対応する。

③ 特記事項

来校できない学校説明希望者に対して、配信型の学校説明会を実施している。

8 財務		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
2	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
3	・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
4	・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

今後の新たな事業展開を考えた時の予算編成が課題となる。

② 今後の改善方策

予算作成では可能な限り詳細まで詰め、収支バランスが予算と大きく異ならないようにする。

③ 特記事項

特になし。

9 教育の内部質保証システム		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
2	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
3	・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
4	・自己点検結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

自己評価の実施と問題点の改善を行っているが、関係する人に主な負荷がかかってしまう。

② 今後の改善方策

朝礼、終礼、教務会議等を通じて、問題の共有をはかり、全体体制で随時改善に取り組んでいく。

③ 特記事項

特になし。

10 社会貢献・地域貢献		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1				
1	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1	
2	・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	4	3	2	1
3	・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1	

① 課題

コロナウイルス感染拡大防止により外部へのボランティア活動は実施していない。  
収穫野菜の安価販売や地域清掃活動を通じて継続して地域貢献活動を行う。

② 今後の改善方策

外部からのボランティア要請があった場合、社会情勢やコロナウイルス感染拡大防止対策状況を見ながら実施を検討する。

③ 特記事項

教育訓練の受託は行っていない。

11 国際交流(必要に応じて)		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	③	2	1
2	・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
3	・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	③	2	1
4	・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

① 課題

留学生の申請等取次者証明書を所有している職員が2名いるが、半日事務所をあけて入管に行ける日が限られることも多く、負担がかかってしまう。

② 今後の改善方策

留学生の申請等取次者証明書を取得している教職員が増えるように、講習会があれば可能な限り参加してもらう。  
留学生専任の日本語講師の配置を検討する。本科入学希望者については日本語能力検定2級(N2)以上の条件を遵守していく。

③ 特記事項

今後、「農・食」に関心のある日本語にたけた外国人を募集していきたい。